

# 特別区長との意見交換会会議録

日 時：令和2年1月28日（火）午後4時52分

場 所：東京都庁第一本庁舎 7階 大会議室

○行政部長 それでは、準備が整いましたので、意見交換会を始めさせていただきます。

本日の意見交換のテーマは、スマート東京実現に向けた取組、スマート東京の実現に向けて、でございます。

進行役は、私が引き続き務めさせていただきます。

出席者につきましては、ご覧の座席表をもちまして紹介に代えさせていただきます。

まず、演題につきまして、副知事の宮坂からご説明申し上げます。

区長の皆様からご覧になって、左側奥のモニターに資料を表示させていただくほか、お手元の端末でもご覧いただけます。

それでは、副知事、よろしくお願いいたします。

○宮坂副知事 東京都副知事、宮坂です。今日は、よろしくお願いいたします。

お手元のほうにお配りしている、こちらの年末にアップさせていただきました、未来の東京、2040年にこうありたいというビジョンと、そしてその中間である2030年にここまではいこうじゃないかという、その戦略のものを、10番にスマート東京を実現しようという話がうたわれております。

それについては、私が主に推進することになりますので、今日は少しお話をさせてもらって、皆さんからご意見、フィードバックをいただければというふうに思っております。

まず最初でございますが、こちら2005年のローマのバチカン広場の風景なんです。ちょうど法王の新しい方が決まる、今か今かと待ってらっしゃるんですけど、これが、2013年に同じことがまたあったわけですけど、2013年になると、皆さん全員が、もうスマートフォンとかタブレットを手にとってらっしゃいます。

平成って何だったんだろうと。いろんなことがありますけど、やっぱり一つ大きなことは、世界の全ての人がインターネットでつながったということが、ものすごく大きな変化ではないかなというふうに思っております。

昨年度が、実は、すごくかなり画期的な年でございます、世界の人口の半分以上の方がついにインターネットをつなぐようになったということでもあります。なので、今からは、もう今、既に世界はインターネットにつながらない人の数がどんどん半分より少なくなっていると。本当の意味で世界がグローバルに一つになろうとしているというのが大きな変化だったかなというふうに思っています。

これ、ちょっと皆さんも、ご記憶にある方も多と思うんですけど、左側のほうにある携帯電話、これは多分、第2世代の携帯電話だと思うんですけど、そのころの携帯電話はまだインターネットにつながらなかったんですね。右側にあるのは、多分、電算機と言われていた時代のものだと思うんですけど、初期のパソコンでございますけど、このころもインターネットにつながっていませんでした。

これが今はどうなっているかというと、左側の電話はスマートフォンという形に進化してネットワークにつながるようになっていきますし、右側のパソコンというのも今はインタ

一ネットにつながって、皆さんがいろいろな情報を取っていらっしやると、こういった変化があります。

今から、今、生まれている令和の子供たちが大きくなったときに、多分、僕たちにきつと、昔、よくインターネットにつながらない電話を使っていたねとか、インターネットにつながらないパソコンを何に使っていたんですかと、多分、言われる日が必ず来るのではないかと、今、思っています。

そういった中で、我が東京都のさまざまな行政サービスとか、いろんなインフラ、設備とか、たくさんあります。教育サービスとか、そういうサービスがたくさんありますけど、こういったものは今、つながっているのかな。ひょっとすると、つながっていなかった時代のまま行っているんじゃないのかという問題意識で、これらをやっぱりつないでいこうじゃないかと。つながっているものとつながっていないものは似て異なるもの、ガラケーとスマートフォンぐらい違いが出るわけですけど、2040年に向かっては、是非、こういったものをつないで、よりよいサービスをつくっていけないかという取組をやっていこうというのがビジョンの方では語られています。

それを一言で言うと、名前を名づけました。「スマート東京」という名前をつけさせてもらいました。

国のほうで、今、Society5.0の日本をつくろうとか、そういった動きがありますけど、東京版のSociety5.0、東京都をSociety5.0にしたものが、いわゆる「スマート東京」だというふうにご理解いただければいいというふうに思っております。

やりたいことは、別にテクノロジーだけを入れたいわけではなくて、結局、テクノロジーを入れて、都民の方が幸せになっていただかないと、テクノロジーだけ入れて何もできなかったということになりますので、こういったセーフシティとか、ダイバーシティとか、こういったものがちゃんと資するようなテクノロジーの選択をしたいというふうに思っています。都民のQOLを上げるというのを最大のミッションにしてやっていきたいと思っています。

こちらの方は、細かい図になっているんですけど、簡単に言いますと、一番下に東京都を、自然、いわゆる環境的なものと、それからインフラ的なもの、そしてサービスの活動的なものに、大きく言うと三つに分けています。今のところ、これらはほとんどネットワークにつながってなくて、データが取れていないんですけど、これから多分10年の間にいろんなものが、いわゆるIoTとよく言われていますけど、この全てが多分IoTでつながって、データが上に上がってくると思います。このデータをいわゆるデータプラットフォームと言われるところで収納して、上の行政サービスに生かしていくということになります。

データを取るというと、いまいちイメージが掴みにくいかもしれませんが、データというのは簡単に言うと、お客様のこと、すなわち都民のことを知るものだというふうに思ってもらったらいいと思います。企業でも、今、データを集めるのはなぜかという、お客様のことをより深く知りたいんですよ。毎日毎日、できるだけ深くお客様のことを理解すると。

お客様のことを理解すると、結果的にサービスのクオリティが絶対上がりますので、この上にある防災とか教育といったサービスを上げるためにも、今まで以上に都民の皆様のことをより深く、よりたくさん、よりリアルタイムに知りたいというような仕組みを是非つくっていきたいと思っています。

そして、東京都自体もいろんな四つの大きな変動要因、リスク要因に見舞われているわけですが、テクノロジーを使えば、こういったいろんなリスクを乗り越えて、よりよい未来がつかれるんじゃないかと思っています。

具体的に何をするのかというと、三つの柱で「スマート東京」をつくろうという方針で考えています。

一つ目は、東京データハイウェイということで、昨年8月末に発表しましたが、東京都のあらゆる空間でインターネットとかネットワークにつながるような環境を是非つくってあげようということを考えています。

二つ目は、東京都のいろんな行政サービスとかインフラをインターネットとかネットワーク、デジタルの技術を使って、もうちょっと便利に快適にしていこうという取組であります。

三つ目は、やや都庁の内側の話になるんですけど、働き方のそのものを、職員の働き方のそのものを、新しい技術を使って、もっと便利に快適に、そしてより生産性の高い仕事ができる環境をつくりたいという三つの柱でやろうと思っています。

一つ目の電波に関しては、特に昨年、災害が非常に多かった年でございますので、よく、いつでも、誰でも、どこでもという言い方をするんですけど、災害のとき、何があってもつながるようにしようということを新たにつけ加えて取り組んでいきたいというふうに思っています。

そして行政サービスでございます。一つ一つは、ちょっと今日は時間がないので割愛しますが、今、いろんなところでスマート何とかというのがよく使われるわけでございますけど、要するに、ネットワークにつないで、データを使って、よりサービスを改善していこうと。デジタル技術を使って、よりサービスを改善していこうという動きをすると、今まであるサービスがスマートほにゃららになるというふうに思ってもらえればいいと思います。あらゆる行政のサービスを、デジタルを使ってスマートほにゃららにアップデートしていこうというふうに考えています。

最後に、都庁の働き方そのものでございますけど、やっぱり我々の日ごろ使っている仕事の仕方そのものを、今日、お配りしているようなタブレットとか、スマートフォンとか、ビデオ会議を使ってやれるようにしたいと思っています。くしくも、ちょうど今日が、iPadが発売されて10年なんですよね。実は、10年前にはまだこういうものがなかったんですけど、たった10年でこれだけ働き方が変わるわけですから、2030年、40年に向けては、もっともっとこういうのを日常的に取り入れていきたいというふうに思っています。

そして、今、現状、我が東京都の状況はどうかと言いますと、残念ながら、世界と比べて

みると、あまりデジタルに関しては進んでいない状態です。本当はベスト3ぐらいに入りたいわけですが、どの項目を見ても10位台より下の方という状態ですが、あまり上から目線でやるんじゃなくて、がむしゃらに、キャッチアップするぞという勢いで頑張りたいと思っています。

そして、世界は今、ぞくぞくと、街そのものをスマートシティにつくりかえようという動きが盛んです。中国のほうでは雄安新区というのが非常に有名なんですけど、一から新しいまちをつくらせようとしていらっしゃいます。これは2017年から始まっています。シンガポールの方では、スマートネーションをつくらせようという構想のもと、デジタルを使ったまちづくりを2014年からやらせようとしていらっしゃいます。EUのほうだと、バルセロナが非常に有名でして、もう2000年から取り組んでいらっしゃいます。なので、ちょうど今年を元年にして、他の都市よりは少し遅れてしまいましたけど、スピード感を持ってキャッチアップしていきたいというふうに思っています。

そして、とはいえ、先ほどお見せした三つのエリアに比べると、東京都は非常に広いです。しかも、いろんな地勢とか文化とか気候とか、産業構造も大分違いますので、一つの形でやるのではなくて、いろんな型でスマートシティをつくらせないといけないと思っています。

今回は、まず、五つほど先行エリアをつくらせようとしておりまして、五つの特徴を持ったところで先行的に実施して、そして、これを皆様のような方といろいろ議論しながら、都内全域にどんどん一緒になって広げていって、そして2030年、40年には東京全体がスマートシティに変わったよねと、都民の方に言ってもらえるように頑張りたいと思っています。

そんな中で、令和2年度、どういう予算でやろうとしているかを、ちょっと時間もあれなので、簡単に話をします。全てこの三つのフレームワーク「つながるまちにしよう」、「行政で使っていこう」、「働き方を変えよう」、この三つで割りつけています。

アウトラインだけで申しますと、去年までデジタルに使っていた投資というのは大体20億円ぐらいだったんですけど、これを今回大幅に、約8倍ぐらい新しいことに挑戦しようじゃないかということで、デジタルに関するものをこれぐらい、今、予定しています。

そして、さらにデジタル化の取組というのは、1年度で終わる話ではなくて、何年もかけて取り組まないといけないと思っていますので、今回新たに基金をつくらせようという、今、構想で考えています。

そして、主な事業のところですが、「つながる」に関して言うと、何はともあれ、来年度必ずやりたいことは、オリンピック・パラリンピックの会場で、世界中の方が東京に来られます。そのときに、インターネットを快適に使える状態で楽しんでいただくというふうに思っています。よく、今までスポーツのイベントとかに行くと、電波が繋がらないとか、よくあったんですけど、そういうことがないように、世界中の人がインターネットを使って、いろんな情報を取りながら、スポーツ観戦を楽しんでもらえるような環境を、今、一生懸命つくらせようとしています。

そして、もう一つ、東京都が持っているいろんなアセットがございますので、こちらに、

5Gになると、かなりの基地局の数が必要になる予定になりますので、もしキャリアの方が置きたいという話があれば、迅速にそれをサポートしていこうと。そして結果的に都民の方が、よりスマートフォンを使いやすい東京都にしていこうということをやっています。

二つ目の行政サービスの活用、これもたくさんあるんですけど、特にやろうと思っ  
ているのが、災害の対策でございます。特に水防災情報のところに、もうちょっとデジタルのテクノロジーを使って、もっと便利にしようという挑戦をやろうと思っ  
ています。

そして、もう一つ、昨年、台風の発災時にホームページがやや落ちてしま  
うとか、遅いとか、そういう問題がちょっと出ましたので、これも何とか来年は解決したいと思っ  
ています。

そして、ダイバーシティに関しては、都立高校の方で全員に快適なネットワー  
ク環境を届けて、都立高校の方が誰でもICTを使って勉強できるようにしてあげたいな  
ど、そういう環境をぜひつくっていききたいというふうに思っ  
ております。

スマート東京の先行エリアでございますけど、五つほど先行的にやっ  
ていこうと。それぞれ特徴も違うところですから、2040年東京をいち早く202X年  
とか、203X年に体感できるようなものをつくっていききたいと思っ  
ております。

スマートシティに関しては、中小企業の5GとかIoTの活用とか、最近、自動運  
転とかいうのも非常に話題になっていますので、そういったモビリティなんかも取  
り組んでいき  
たいと思っ  
ています。

働き方に関しては、行政のデジタルシフトに関して言うと、手続をスマ  
ートフォンでできるようにしたいという声が非常に大きいので、これを着実に前  
に進めていくと同時に、職員の働き方そのものを、デジタルという道具を使  
って、もっと生産性が上がるような仕事の仕方をしたいと思っ  
ています。

これは最後になりますけど、来年度1年間で終わる取組ではなくて、これ  
から10年、20年かけて東京は常に世界の中でも最先端のスマートシティとし  
て維持しないとイケないの  
で、それに向けて解決しないとイケないことを話させてもらって終わりたい  
と思っ  
ています。

一つ目は、やはり新しいタイプの企業とか、民間の人と、それからアカ  
デミック、学校の方とか、大学の方ともよく話し合いながらつくっていか  
ないといけ  
ない。決して行政だけで考えているのではなく、オープンにいろいろな意見  
を取り入れながら、どう  
いうスマートシティをつくるのかという、そういうオープンな仕事のスタイル  
を東京都の職員自身が身につけたいと、そんな取組の1年にしたいと思  
っ  
ています。

そして二つ目は、人材でございます。東京都に関して言うと、ICTの人材  
は非常に、今、少ないんです。こちらのように世界各国の主要な都市のICT  
の専任スタッフの数を  
書いていますけど、皆さん、500人とか1,000人という規模でICTをや  
っていらっ  
しゃるんですけど、今、東京都は100人ぐらいしかいない状態なんです  
ので、これを何とか分厚くして  
いきたい。これができないと、やはり、何もできないので、ここを  
しっかり強化したいと思  
っ  
ています。

そして将来の財政需要に向けて基金をつくるわけですけど、無駄がない  
ように、どうい  
う

意思決定で、何に取り組んでいくかという仕組みを来年度考えていきたいなと思っています。

そして、世界水準を見据えた制度に関して言いますと、人材もある、予算も取ったといえ、ルールとか、レギュレーションとか、規制がそこでなかなかできないことが多いとできませんので、これについては、関係する機関と話し合いながら、世界のスタートアップの人が東京でやっぱり仕事がしてみたい、東京で挑戦をしてみたいと思ってもらえるようなまちに是非、変えていきたいなというふうに思っています。

そして最後に、東京都だけでなく、東京都の全域の市区町村の皆さんと一緒に取り組まないと、東京都全域のスマートシティ化は無理だと思いますので、そういったノウハウの共有の場をどういうふうにつくっていくのかとかですね。ちょうど、9月ぐらい以降からそれぞれの62市区町村のICT担当の方を集めさせていただきまして、こういったデジタルに関する議論を2回ぐらいさせてもらったんですけど、これは今後とも、是非続けさせてもらいたいなというふうに思っています。そして最終的には日本全体に貢献できるようなノウハウを提供できるようなことをしたいと思っています。

具体的には、先ほど、東京都のいろんな場所とかに基地局を置きたいという時に、今、データベースを公開して、伝票とかを書いてもらって処理を進めているんですけど、このノウハウ自体を、実は他の道府県の方からも、是非我がまちも何とか県版データハイウェイをつくりたいというのがあるので、相談とかを受けているんです。こういったものも出し惜しみすることなく、ノウハウをしっかりと届けていきたいなと思っています。

以上、私のほうから「スマート東京」へ向けての取組を話させていただきました。よろしくお願ひします。

○行政部長 副知事、宮坂からの説明は終了いたしました。

続きまして、山崎会長から本日のテーマにつきましてご発言をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○山崎特別区長会会長 余り時間がないので、いろいろと話すことを控えてお話しさせていただきますが、Society5.0の実現によるいろんな効果というか、必要性というか、そういったものが今、副知事さんからのご説明でわかりました。

しかし、それをやるにしても、何にしても、都と区の連携というものがしっかりとしていかなければできようがなく、例えば、区有施設に5.0のネットワークのアンテナというのか、そういう基地局というのか、そういったものを置くにしても、やはりお互いの理解が進まなければ、できるはずはない。そうした意味で、今後、いろいろと我々区長会ともご議論をいただき、各区が、みんなが相乗れるような、そういった協力体制をつくっていかなくやいかんというふうに思っています。

今日は、他の区長さんもいろいろ、また、前もって区長からいろいろご意見を提出させて

いただいておりますので、それはご覧いただければわかると思うんですが、それに対するお答えとか、あるいはまた、今日お見えの他の区長さんたちのお話があれば、発言してもらいたいと思いますので、それで一つお願いいたします。

○行政部長 それでは、知事、いかがでしょうか。

○小池知事 今、副知事のほうから「スマート東京」実現ということでご紹介させていただきました。もう既に各区のご担当の方と勉強会なども進めさせていただいているところでございます。

やはり、これからの都市間競争に打ち勝つためには、情報通信の環境を整えるというのは、もうインフラと同じでございますので、是非、これを都民の利便性、区民の利便性の確保とともに、都政や区政のさらなる効率化のためにも進めていきたいと、このように考えております。

また、宮坂副知事が区長会の皆様方に、より詳しいご説明等もさせていただき、今、お話がありましたように、都庁においても、職員をIT職というので採用していないわけですから、詳しい職員もいますけれども、でも、その部分での技官とか医官とか、そういう職種ではこれまでとっていないわけですね。

ですから、今後の人材をどう確保するのか、また、この世界はずっと同じところの職場にいると陳腐化してしまうという非常に難しい課題もあり、そのあたりをどう職員の、公務員としての立場とか、幾つか課題はありますけれども、これらは連携させていただきながら、よりよいまさしく環境づくりを進めていく。それによって5Gをいち早く東京は進めていくことによって、国際的にも、またオリパラ、オリパラまではなかなかあれですけど、Wi-Fiなどの完備などもいたしまして、いわゆる情報通信サクサク感というのを確保するなど進めていきたいと、このように考えております。

それから、AIやRPAの活用などもお考えだと思いますので、そのあたりは、是非、共有しながら進めていくのが最も効率的なのではないか。もうイノベーションは日進月歩で進みます。それをフォローするだけでも大変なんですけれども、そういったノウハウなどは、是非共有させていただくことによって東京全体が、質、またいろんな面で、効率等々でより良くなるというふうに考えております。

ありがとうございます。

○行政部長 続きまして、他の区長の皆様からもご発言いただければと思います。

本日、大変恐縮ですけれども、17時30分の会議の終了を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

いかがでしょうか。



○田中杉並区長 ちょっと質問させていただいていいですか。

「つなげる」ということで、今、プレゼンテーションをお伺いしたんですけど、例えば、我々基礎自治体、東京都も個人情報を扱っているわけですよね。税情報を初め福祉や医療や教育や、そういった個人情報はどうするんですか。それも将来的には「つなげる」という世界の中に含まれていく方向なんですか。

○宮坂副知事 やはり、個人情報のご懸念は非常に重要だと思っていて、技術的にできることと市民感情、都民感情的にやってほしいと思うことにギャップが出てきていると思っています。これについては、できるから何でもやるという形ではなくて、法律もありますし、法律じゃない部分でも感情的な面もあると思いますので、そこはしっかり市民、都民の方の意見を聞きながら進めないといけないかなと思っています。

特に、例えば顔認証とかは非常にセンシティブなものになりますので、今のところは個人情報に関するものについては、やや保守的に進めたほうがいいのではないかなと思っています。コンサバティブに物事を進めたほうがいいかなと思っています。

○行政部長 他の区長さんはいかがでしょう。

墨田区長、お願いします。

○山本墨田区長 大変すばらしいお話を今伺って、一つは防災対策、これは喫緊の課題でございまして、やはり、つながる、つなげるのはいち早くと、スピード感というところが一つあると思います。是非、いろんな課題はあるんでしょうけれども、ここのスピード感というところだけは少しご配慮いただければというふうに思います。

もう一つ、私の方からは、墨田区の令和2年度、ちょうどお話を聞いていて、私どもの取組とぴったり合っているなというのが、スタートアップとかスマートファクトリー、それからIoTとかロボットとか、中小企業振興、産業支援というところが非常に私はこれからの東京は大事になってくるというふうに思います。

いわゆるインフラ整備と、それから、それを活用した中小企業が、活力があると。ちょうど私どもの方で言うと、ものづくり企業の集積を基盤として、今、新分野の皆さんがすごく。浜野製作所さんが集まってきているというようなこと。それから、これから夏に向けて、宇宙産業、こうしたものがうちの区から発信していけるんじゃないかと、こういうところが一つあります。

それから、ちょうど4月からICTの専門職大学というのがオープンになります。まさに、今日、おっしゃったようなことを学ぶ学生さんたちが参ります。そういう中で人材育成、教育というところ、非常に関連してくるので、是非、そうした分野にも目を向けていただいて、東京都としっかり連携ができたらなということをお願いしたいと思います。

以上です。

○宮坂副知事 ありがとうございます。

○行政部長 武井区長、いかがでしょうか。

○武井港区長 私のところも5Gを利用して行政のサービスを向上させたり、あるいは産業振興に役立てたり、いろいろな用途があるのではないかと、今、研究もしているところでもあります。

物理的な基地局が整備されないと、それは利用できないということで、ケーブル事業者の方と基地局を設置する企業の方と区と協定しながら、区の施設を利用していただいて、基地局を設置して、それも通信事業者の方が相乗りできるようなシェアリングもできる仕組みづくりができないかということで進めていくんです。

けれども、先ほど、宮坂副知事の話にあったように、災害をまずやっていきたいということで、5Gの一つの特徴としては同時多接続ということがあると思ひまして、それで、災害時に例えばインターネットなんかですと、情報を取りたくて、それがなかなか対応できなくて届かないというような実態があります。

例えば、今、私の区で言えば、青山墓地などを避難場所として指定されているわけです。実際に暮らすのは避難所ですけども、いつとき集まってもらって、それから広いところでそこで一時避難していただくということ、そういうところについても、先行的に整備していただくことが災害対策として非常に役立つのではないかというふうに思ひまして、私のところでも区立の公園などもありますので、そういうところも進めていく。それにはそれぞれルールがありますので、占用ということになりますから、むやみにやることはいけないということはあるんですけども、そういう中でも、重要性ということには上位に置くべきではないかというふうに思ひておるんです。

それで、先行実施エリアとしてお考えのところは、それはそれとして、先行実施する場所というようなことで、災害対策のときに同時多接続でありますとか、通信速度が飛躍的に高い、情報量も多い、それを活用することができるようなエリアとして、例えば、そうした広域的な避難場所とかも意識して先行整備していただくと、より実用性が高まるのではないかというふうにも思ひますので、是非、そうしたこともお考えいただければというふうに思ひますが、いかがでしょうか。

○宮坂副知事 災害の話が両区長から出たので、そこについて補足させていただきます。

まず、やはり、一番大事なことは、困ったときこそインターネットにつなげたいということだと思うんです。災害のときこそ、つながらないといけない。物すごい速度が出なくても、とにかくつながるとつながらないでは大分違います。とにかくつながることを維持しようというのを、是非やりたいと思ひています。

特に、基地局に関しては、キャリアの企業様の基地局を置く戦略作戦の中でやるしかないところがあるので、優先的にここに置いてとは、なかなか言いづらいところもあるんですけど、今までキャリアの方がここに置きたいと、東京都が持っている例えば公園とか博物館とかにあっても、あまり前向きに伝えていなかった部分がちょっとあったみたいなんですよね。優先度が高くなかったというのがあるんですけども、これからは基本的に、頼まれたときには前向きに伝えていこうじゃないかという方に方針を改めましたので、これからはかなり基地局の置かれるペースも増えていくんじゃないのかと、それにつながるところも増えると思います。

そういう中で、公園みたいなところも、災害拠点なんかは、東京都として一番最初にやるべきではないかと。先日も、電波もそうですけど、携帯電話のバッテリー、これも広い意味で実は「つながる」の一つだと思っているんですけど、そういったものもやらないといけませんし、幅広くやりたいなと思っています。

ホームページの方は、どうしても大量にアクセスが来ると、今度、ホームページの方が落ちやすいという現象がどうしても生まれやすいというのがありますので、これについては、今、東京都の方で外部のICTに強いエンジニアも含めて巻き込んで、こういうホームページのつくり方をしてもらったり、こういう技術を入れてもらえると、かなり大量にアクセスが来ても、100点というのは、なかなか言いづらいんですけども、かなりいけますと。少なくとも去年の台風19号の発災ぐらいであれば、全然にホームページを維持できるぐらいのガイドラインというか、マニュアルみたいなものもつくって見たんです。それを今、各全市区町村の方にお見せしております、フィードバックをもらっているところなんです、最後、もしよければ、それを参考にいただければ、去年と同じレベルのものが来たときには、多分、何とかいけるのではないのかなということをやっていますので、年々、そうやってホームページの強靭性もこれから高めたいと思っています。

○行政部長 他の区長さん、いかがでしょう。

じゃあ、服部区長、お願いします。

○服部台東区長 台東区では2点、申し上げさせていただきますが、1点目は、一つ、区のさまざまな業務、各区とも共通していると思いますが、台東区では業務時間の削減、これはRPA、これは既に導入して、現在、3業務を実証実験しているという段階ではあるんですけども、かなりの削減ができているという中で、こうした3業務をさらに拡大する。そのためには、都、そして関係区、あるいは交流会を通しながら、参考事例などの情報を是非、いろいろ共有しながら進めさせていただきたいと思っていますので、この点、よろしくお願いたします。

2点目は、台東区は、墨田区も同じですが、小規模事業の街なんです。したがって、産業振興というのは非常に大きな重要な課題であります。そういった意味で、5G、ローカル

5Gのほうですが、この辺を一つものづくり、あるいは他の事業にいろいろ活用ができるようなことを、これからも都と一体となって取り組ませていただきたいと思いますので、その点、よろしく願いいたします。

○宮坂副知事 ローカル5Gで補足させてもらいますと、おっしゃるとおり、今、頑張っていっていらっしゃる小さな企業の方に、より頑張ってもらえるような環境をつくることと、あとスタートアップ、さっきスタートアップのお話をされていましたが、イノベーションを起こす新しいチャレンジャーを、むしろ世界からどう呼び込むかというのは大事だと思いますので、そのためにも、電波も含めた環境が良くないと、そこではやりたくないと言われてかねないので、そこはやろうと思っています。

ローカル5Gに関しては、今、機材がなかなか値段が下がってこないで、一つ一つの事業者さんが入れるにはなかなか、今、大変だと聞いていますので、テレコムセンターの方に今、一つローカル5Gの拠点を用意しました。そこでまず持ち込んでいただいて、テストをしてみるとか、そういう環境の方はいち早くやろうということで、産業労働局の方で今、どんどんやっておりますので、まず、そういうところで、やりたいという方が挑戦できる実験環境みたいなものは用意しましたので、是非、一緒になってそれはやらせてもらえればと思います。

○行政部長 成澤区長、いかがでしょうか。

○成澤文京区長 時間切れかなと思っていたんです。

前にも宮坂副知事にお話ししましたが、東大周辺にAIの集積が今始まってきている。本郷バレー、本郷AIと。

彼らと話していると、僕も聞いて、なるほどなと思ったのは、RPAのようなICT活用と、これからのSociety5.0等のAI活用を自治体は分けて考えた方がいいというふうに言われて、言われると、なるほどなというふうに思うんです。

AIの方は、基地局の整備等は東京都さんに、がんがんキャリアと頑張ってもらって、スタートアップ支援をどうやっていくのかという時に、スタートアップの人たちが地域課題や東京都の行政課題を解決するためのノウハウというのを、今の時点ではいろいろお話ししていても、持っていないんですね。どこを解決したらいいのかというのがなくて、ハードの整備じゃなくて、スタートアップの人たちに、我々の関心事に共通のテーブルで持ってもらうような、今回、コンソーシアムをつくられましたけれども、そこにはかなりの力を入れていっていただきたいというのがございますので、そこはお願いです。

もう一つ、つまらない話で恐縮なんですけど、国がGIGAスクールをやると言い始めて、この間、全国市長会の理事・評議員会では、まさか交付税じゃないよねという話になったんです。しかも2分の1と言っていると。これは武市さんのほうを向いてしゃべった方がいい

のかもしれないけど、相当都区で頑張らないと、GIGAスクールは実現できないというふうに思っていますので、今入っている回線では解決しないはずですから、今年の予算では当然対応できていないわけですが、来年に向けて、いろいろとご努力をお願いしたいというふうに思います。

○宮坂副知事 スタートアップに関しては、おっしゃるとおりで、国内外のスタートアップの方が行政課題というものを自分の技術で解いてみたいと思ってもらえるような環境を是非つくりたいと思っています。実は年末に、テスト的にちょっとやってみたんですけど、そういうスタートアップイベントみたいなものをつくりまして、東京都の持っている観光に関する課題を解いてくださるスタートアップの人はいませんかとやってみたら、結構来てくださったんです。それはちょっとテスト的にやったんですけど、話を聞いていて、観光は多分、皆さんが一番現場でやっていたところもありますので、是非、そういったイベントなんかはもうちょっと幅広くやっていると、実はもっとマッチングできるんじゃないかなと思いました。

学校に関して、今、スマートスクール、都立高校、頑張ろうとしております。思いとしては、一番いいものは、まず、若い人から提供してあげたいなと思っておりますので、是非、いいものをつくりたいと思いますし、知事がよく都市間競争という話をされていますけど、ベンチマークを、去年より良くなったというのをもちろん見ると同時に、シンガポールの子供たちと比べていい環境になっているのかどうかという国際的な視点で比べてあげないと、非常に良くないことになるような気がしますので、そういった、これから我々も、去年のことも見ますけど、海外はどうなっているのかに目を向けて、そこと比べて少しでもいいものを若い世代の人に届けていきたいなと思っています。

○行政部長 石川区長、いかがですか。

○石川千代田区長 これというのは、人材養成が非常に課題になると思うので、東京都でも、その部分に、ご支援なりご協力をいただきたいというのが1点、答えはいいですから。

2点目は、千代田区のような膨大な昼間人口がいるところですから、発災のときの一時避難場所というのが結構置いてある。その中に日比谷公園もあるんです。日比谷公園を、さまざまに中身を変えていく時には是非、防災という観点の、それをどういうふうに取り組むか、まさに今回の都でおっしゃるスマートシティの中にどういうふうに取り込むかというのは、ぜひ、お願いをしたいなと。答えはいいですけど、よろしくお願ひします。

○行政部長 GIGAスクールの件がありまして、藤田教育長からよろしくお願ひします。

○教育長 いつも大変お世話になっております。教育長、藤田でございます。

今、GIGAスクールの話が出ましたので、今、まさに、また条件づけだとか、いろいろなスキームだとかというのは、今日現在でも動いている状況であります。大きいところでは、ここ数年にかけて基盤整備をやるということで、おっしゃいましたとおり、国が2分の1、あとの3分2は起債と交付税措置でされるというので、そのうちの6分の1、残った部分について、今、私どもで財政措置をして補助金という形でご支援申し上げようと思っています。各教育長の方々にはご案内を差し上げながらやっておりますので、是非是非、各区長さんにおかれましても。

○成澤文京区長 交付税措置分は、区が見るということ、財調で見るということ。

○教育長 そのところは、一応、地財措置がされておりますので、そのところは頑張っていたことにはなるのですが。そこは、教育部門のほうには仕組みはご説明はさせていただいているのですが。ここで一気に加速したいというところで、何とか区、あるいは市のほうの首長さんのほうにも、是非、ご理解、ご支援を賜れると非常にありがたいということで、これは全国的にもそんな形で国策を進めていこうというようなことでございますので、是非是非、この機会に私どもも強力に支援をさせていただきたいと思っていますので、是非、よろしくお願ひしたいと思います。

○行政部長 すみません。各区長からさまざまにご意見をいただいているところでございますが、そろそろお時間となりました。

最後に、これまでの話を受けまして、小池知事の方からご発言をお願い申し上げます。

○小池知事 今日は、お時間を大変有意義に過ごすことができました。ありがとうございます。

そして、また、今の5Gもそうでありますけれども、世の中の変化のスピードはけたたましく速いという中で、都民、区民のニーズに的確に答えていくという共通の課題がございます。それぞれの情報交換を密にしながら、そして、また、都民、区民の、東京に暮らしているということの充実感を感じていただけるような、そんな体制を組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

誠にありがとうございました。

○行政部長 それでは、以上で意見交換会は終了となります。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —